

畜産ネットワーク ちば

2012年1月20日
第23号

発行所 (社) 千葉県畜産協会
〒260-0021
千葉市中央区新宿1-2-3
K&T千葉ビル3階

発行人 森 英介

年頭のご挨拶



社団法人
千葉県畜産協会

会長 森 英介

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様には、清々しい新年をお迎えのことと存じます。

日ごろより、当協会の各種事業の推進に当り、多大なご支援、ご協力をいただきしておりますことに厚く御礼申し上げます。

昨年は東日本大震災という未曾有な災害発生、更には東京電力福島原発事故による放射能汚染、また震災発生直後に発生した高病原性鳥インフルエンザ発生等、大変な一年でした。被害を受けられた方々に対しまして心よりお見舞い申し上げます。

更には、経済が低迷する中、TPP参加問題が世論を二分する論議にまでなり、農畜産物の放射能汚染による風評被害とも相まって、食料自給・農業・畜産への危機感が国民的な関心ごとともなりました。

大変な年ではありましたが、躍進につながるための試練として、すべてのことに対して前向きに取り組むことが大切であると思っております。

畜産協会といたしましても、出来得る限りの対応として、震災被災県の震災復興支援、いわゆる風評被害対策としての消費拡大の推進、畜産経営支援のための緊急融資や原発被害の補償への支援などに努めてきたところです。

本年は、畜産にとって、国内の景気動向及び円レート、TPP問題の方向、放射能汚染及びその風評被害の収束見通し、飼料価格動向等、課題、障害は多々あろうかと存じます。

しかしながら、畜産協会といたしましても、昨年の危機に培われた生産者、行政機関等との連携を活用し、出来得る限りの対応を図ってまいる所存です。

特に消費者と生産者、あるいは行政機関とのパイプ役として、皆様のお役に立つよう努めてまいりたいと存じますのでご支援ご協力をお願ひいたします。

平成24年が皆様にとって飛躍の年となりますことをお祈り申し上げ年頭の挨拶をいたします。

もくじ

- ・年頭のご挨拶 (1)
- ・平成23年度千葉県家畜保健衛生業績発表会が開催される (2)
- ・オーエスキーアー病の清浄化への取り組み (3)
- ・高病原性鳥インフルエンザの侵入防止に向けて (3)
- ・第49回畜産関係試験研究成果発表会のご案内 (4)
- ・肉用牛損害賠償金支払われる！！ (6)
- ・肉用牛肥育経営緊急支援事業（5万円事業） (6)
- ・肥育牛補てん金の毎月交付が継続されます！ (7)
- ・東日本大震災に係る要件緩和特例措置終了のお知らせ (7)
- ・畜産機械施設リースのご案内 (8)
- ・平成23年度ナイスパークチバ活動報告会盛大に開催 (10)
- ・俺たちの豚肉を食ってくれ2011盛大に開催 (10)
- ・平成23年度千葉県豚共進会 (11)
- ・第36回千葉県種豚オークション (11)
- ・2011年（第5回）千葉県畜産フェア開催 (12)
- ・畜産新規就業者確保・定着促進事業 (12)
- ・NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター通信 (13)
- ・ちば畜産レディースネットワーク会報 (14)
- ・ふれあい体験教室開催 (15)
- ・事務所移転のお知らせ (16)
- ・「食の安全・安心」は「法令遵守」から (16)
- ・編集後記 (16)

平成23年度千葉県家畜保健衛生業績発表会が開催される

平成23年12月21日（水）、千葉県文化会館小ホールにおいて、平成23年度千葉県家畜保健衛生業績発表会が開催され、県内の家畜保健衛生所職員から、業務の中で生じた課題への対応や、県内では珍しい疾患の発生事例、詳細な病性鑑定報告など、計14題の発表がありました。

この発表会では、昨年3月に発生した「高病原性鳥インフルエンザの防疫対応」に関するものが4題の他、一昨年度に引き続き、「牛白血病の対応」に関するものや「オーエスキーブロッケン病清浄化」に向けての取り組み、国内で初の症例である「馬ヘルペスウイルス5型の関与が示唆される馬多結節性肺線維症」の報告がありました。

高病原性鳥インフルエンザについては、3月11日に発生した東日本大震災の直後に発生し、防疫対応に混乱を極めたわけですが、県職員、市町村職員、関係機関職員の協力により、感染拡大を最小限に留め、終息させることができました。発表においては、現地対策本部で行ってきた防疫対応について、それぞれの家畜が担当した役割（発生農場、周辺農場、消毒ポイント）毎に、その概要と問題点や今後の対応について報告されました。

高病原性鳥インフルエンザは、今年度も中国の家きん、香港の野鳥等で発生の報告がされており、国内での報告は無いものの、渡り鳥の飛来シーズンに入っていることから発生リスクは高まっています。この後も改正家畜伝染病予防法に基づく「飼養衛生管理基準」の遵守徹底により発生予防に努める必要があります。また、畜産協会とともに進めているオーエスキーブロッケン病清浄化についての途中経過が発表され、野外抗体陽性率は確実に低下し、清浄化の兆しが見えてきており、今後もワクチン接種の徹底と陽性繁殖豚の淘汰が重要だと発表されました。

県では、今後も引き続き、急性悪性伝染病、慢性伝染病防疫対策に取り組んで参りますので、畜産関係者及び畜産農家の方々におかれましては、家畜保健衛生所と共に伝染病対策を進めて行かれるようお願い致します。

なお、この発表会で選抜された演題は、関東甲信越ブロックの業績発表会や、千葉県獣医学会、関東地区の獣医師大会・三学会で発表されることとなります。他の演題についても、畜産関係雑誌等で目にする機会がありましたら、是非ご一読いただき、業務の参考として役立てていただきたいと思います。（千葉県農林水産部畜産課）

	開催日	開催場所	選出演題（発表者）
第53回関東甲信越ブロック家畜保健衛生業績発表会	平成24年2月16日（木）	山梨県甲府市ベルクラシック甲府	<ul style="list-style-type: none"> ・オーエスキーブロッケン病清浄化推進総合対策事業の管内進捗状況と清浄化に向けての提言（東部家保片山雅一） ・高病原性鳥インフルエンザ発生時の消毒ポイント対応（北部家保 塚原涼子） ・牛白血病清浄化対策のためのリアルタイムPCR導入の検討（中央家保 渡邊彰俊）
平成23年度千葉県獣医学会	平成24年3月4日（日）	千葉市中央区プラザ菜の花	<ul style="list-style-type: none"> ・豚サイトメガロウイルス感染症の病理学的検索（中央家保 関口真樹） ・野生イノシシにおける人獣共通感染症抗体保有状況調査（南部家保 倉地充）
平成24年度関東・東京合同地区獣医師大会・三学会	平成24年9月2日（日）	埼玉県大宮市大宮ラフォーレ清水園	・馬ヘルペスウイルス5型の関与が示唆される馬多結節性肺線維症（中央家保 木下智秀）

わたしたち森久保薬品は
人と動物の「これから」を真剣に考えています。



オーエスキー病の清浄化への取り組み —さらなるワクチン接種の徹底と野外陽性豚のとう汰の推進—

千葉県では、平成20年12月から新しいオーエスキーアウトブレイク(以下ADと略)防疫対策として、5年間で清浄化を達成することを目標に、地域ぐるみでワクチン接種を推進し清浄化に取組んできて、早3年が過ぎました。

先般、開催しました県AD防疫協議会では地域AD防疫協議会等の推進状況として、地域全体ではワクチン接種の徹底が図られており、その結果AD抗体陽性率も減少し繁殖豚の野外陽性豚も少なくなっているとの報告ありました。

また、一部の地域では繁殖豚の全頭検査による野外陽性豚のとう汰も推進していることから、繁殖豚とう汰方針、手続方法についての確認、清浄化が進んだことによる繁殖豚のみの接種への移行認定、清浄性確認農場の認定について協議され、それぞれ了承されました。詳細については当協会又は家畜保健衛生所へお問い合わせください。

一方、個々の農場を見ますと依然としてステータスⅠ・Ⅱ前期の農家があることやワクチンプログラムに即した接種の推進が困難な農場などがあり、更なるワクチン接種の徹底が求められているところです。

今後は、一層地域ぐるみでワクチン接種の徹底を推進するとともに、家畜保健衛生所の指導を得て農済家畜診療所や指定獣医師等の協力により、繁殖豚の全頭検査を計画的に実施し、野外陽性豚のとう汰の促進及び、導入豚はAD抗体検査で陰性なものを確認して導入することが重要です。

新年を迎え、AD清浄化達成には残すところ1年10ヶ月となりました。皆様方の御努力により清浄化に向けて明るい兆しが出てきています。一層の御尽力・御協力・御支援を賜りますようお願い申し上げます。（衛生環境部 薫田）

高病原性鳥インフルエンザの侵入防止に向けて

高病原性鳥インフルエンザの発生は、一昨年以降9県24農場で確認されました。

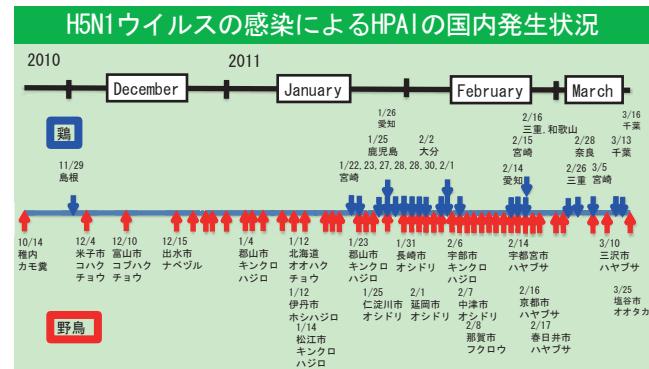
本県では、昨年3月千葉市内2戸の養鶏場で発生が確認されました。早期の発見、早期の家畜保健衛生所への通報、早期の防疫処置により、他の農場への感染もなく約1ヶ月間で終息しました。

その後の疫学調査等によりますと、一例目の高病原性鶏インフルエンザウイルスの遺伝子は韓国の野生オシドリから採れたウイルス由来株であったこと、2例目は和歌山県で採れた鶏ウイルス由来株であったとのことでした。

この農場の防鳥ネットは整備されており、適正に管理されていたがどのように農場内にウイルスが侵入したかは今後の調査が待たれます。

全国的には、湖沼等に飛来している野鳥からウイルスが採れている近くの養鶏場での発生が多く見られているとのことです。

現在も中国初めアジア周辺諸国では、依然として高病原性鳥インフルエンザが発生していることから養鶏関係者の皆様方には引き続き、日常の衛生管理の徹底や早期の発見等下記の事項を参考に万全を期していただくようお願いいい



HA遺伝子の塩基配列が100%相同率を示した例

韓国オシドリ由来株3株	VS.	高知県オシドリ由来株 千葉県1例目鶴由来
宮崎県1例目鶴由来株	VS.	宮崎県2例目鶴由来株 大分県オシドリ由来株
和歌山県1例目鶴由来株	VS.	千葉県2例目鶴由来株



高病原性鳥インフルエンザ（低病原性禽）発生防止のための対策

- ①野鳥・野生動物の侵入防止対策
 - ②ネズミ対策
 - ③人、車両を介してのウイルス侵入防止対策
 - ④飲用水・飼料等を介してのウイルス侵入防止対策
 - ⑤家きんの健康観察
 - ⑥飼養衛生管理の確認・指導
 - ⑦情報の収集及び共有

第49回畜産関係試験研究成果発表会のご案内

千葉県農林水産技術会議畜産部会では、試験研究の成果発表会を開催し、広く関係者の皆様に成果の内容をお知らせするとともに、皆様からの提言を今後の研究成果に反映させたいと考えています。

参加は無料で、事前の申し込みも必要ありません。開催日時、場所、課題名等は下記の通りです。

お誘い合わせの上、多数のご来場をお待ち申し上げております。(畜産総合研究センター)

＜酪農・肉牛部門＞

日 時：平成24年2月7日（火）10時30分～14時35分

場 所：さんぶの森文化ホール（さんぶの森公園内）

山武市埴谷1904-5 (TEL: 0475-80-9700)

□飼料用米とDDGSを利用した肉牛用肥育飼料の開発

（畜産総合研究センター 生産技術部 乳牛肉牛研究室 小林正和）

飼料用米とアルコール蒸留粕（DDGS）を組み合わせた和牛用肥育飼料は、トウモロコシ等輸入穀類主体の肥育用飼料と同等の産肉成績が得られる。



□黒毛和種の子牛における発育状況等が枝肉成績に及ぼす影響

（畜産総合研究センター 生産技術部 乳牛肉牛研究室 森知夫）

県産子牛セリ市に出荷された黒毛和種子牛の発育状況などが枝肉成績に及ぼす影響について検討したので紹介する。



□飼料イネにおける葉緑素計を用いたβ-カロテン含量の簡易判定

（畜産総合研究センター 企画環境部 環境飼料研究室 細谷 肇）

黒毛和牛や交雑種の肥育管理ではビタミンA制御が重要なため、飼料イネの利用にあたりβ-カロテン含量の把握が望まれる。そこで葉緑素計を用いた簡易判定法を報告する。

□県内で生産された飼料イネサイレージの発酵品質と収穫調製条件の関係

（畜産総合研究センター 企画環境部 環境飼料研究室 名取美貴）

県内の20～22年産飼料イネサイレージの発酵品質を分析・集計した。品質評価の優劣を左右する要因を整理し、水分含量と収穫調製条件の間にみられた関係を中心に報告する。

□家畜ふん堆肥の低コストで簡易な造粒技術の確立

（畜産総合研究センター 企画環境部 環境飼料研究室 長谷川輝明）

既製の攪拌機を利用した牛ふん堆肥の造粒化では、水分及びバインダー添加率、攪拌時間を調節することでさまざまな粒度の粒状堆肥が生産できる。

□牛胚（受精卵）移植における受胎率向上に関する要因解析

（畜産総合研究センター 嶺岡乳牛研究所 久保田 尚）

牛胚移植の受胎率向上を図るため、当所の乳用牛受精卵供給事業における胚移植の記録表の各種データを用いて、受胎率に影響を及ぼす要因について解析を行った。

□県産和牛ブランド化推進事業における採卵及び移植成績

（畜産総合研究センター 生産技術部 乳牛肉牛研究室 利谷彰彦）

胚移植技術による遺伝的に優良な能力を持つ黒毛和種雌牛の増殖を目的に実施された本事業における5年間の採胚、移植及び分娩成績の分析を行った。

□泌乳牛への飼料用米粕サイレージの給与効果

（畜産総合研究センター 生産技術部 乳牛肉牛研究室 笠井史子）

飼料用米（べこあおば）の粕サイレージを配合飼料と40%置き換え、分離給与法とTMR給与法で泌乳牛に給与して比較検討した。

□トウモロコシサイレージを用いた泌乳牛用発酵TMRの給与効果

（畜産総合研究センター 生産技術部 乳牛肉牛研究室 石崎重信）

乳熟期、黄熟期、完熟期に収穫したトウモロコシサイレージを混合した発酵TMRは採食性、乳生産等に差がないが消化率は乳熟期が高い。発酵TMRは変腐しにくい。

□千葉県酪農における6次産業化条件の検討

（畜産総合研究センター 企画環境部 企画経営室 西山厚志）

乳製品等の製造に県内酪農家が関わる事例を調査し、アイスクリーム及びナチュラルチーズの採算ベースを検討した。

また、ナチュラルチーズについて県内消費者の価格感度を調査した。

＜養豚部門＞

日 時：平成24年2月22日（水）10時～13時30分

場 所：印旛合同庁舎大会議室

佐倉市鎌木仲田町8-1 (TEL: 043-483-1128)

※駐車場に限りがありますので、電車を利用される場合は乗り合わせての来場をお願いします。

□未利用資源の養豚用飼料への利用－規格外せんべいの利用－

（畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 赤木友香）

肥育後期豚に規格外せんべいを配合した飼料を給与した結果、発育は良好で、と体・肉質成績に問題はなかったが、25%配合区の多価不飽和脂肪酸割合が高くなつた。



□飼料用米（玄米）とエコフィードの配合割合の違いが肥育豚の発育および肉質に及ぼす影響

(畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 新垣裕子)

千葉県飼料用米と千葉県内で製造されたエコフィードを併用給与し、肥育豚の発育および肉質に及ぼす影響を検討した。



□効率的な豚精子の保存方法の検討（畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 沼尾真人）

機械的に5℃に低下させた豚精液を人工授精に用いた結果、受胎が確認出来たことから、低温保存した豚精液は人工授精に利用可能であることがわかった。

□捕獲されたイノシシの利用技術の検討（畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 新垣裕子）

千葉県内のイノシシ肉の利用促進を図るべく、県内で購入したイノシシ肉の季節別・生育ステージ別の肉質及び加工利用法を検討した。

□バイオベッド豚舎で発生したサルモネラ症（東部家畜保健衛生所 衛生指導課 菅 賢明）

バイオベッド豚舎においてサルモネラ症が発生した。農場内の汚染状況を把握し、適切な衛生対策を立てる目的で環境検査及び抗体検査を実施したのでその概要を報告する。

□初産豚の授乳期における高蛋白質飼料の給与効果（畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 細野真司）

初産豚（LW）の授乳期にCP20%の高タンパク質飼料を給与した区とCP15%の2区を設け、飼料摂取量、母豚および子豚の体重の推移、発情再帰日数等を調査した。

豚（ランドレース種）第2世代
総合育種価 1位（上：雄 下：雌）

□豚（ランドレース種）の系統造成試験（第2世代）（畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 高橋圭二）

H20年度よりボウソウL3の後継豚として、繁殖性、産肉性が高く、肢蹄の強健な種豚の改良に着手した。今年度は、第2世代豚の生産を行ったのでその成績について報告する。

※引き続き同会場にて千葉県畜産協会主催の養豚大会が行われます。

< 養鶏部門 >

日 時：平成24年2月8日（水）10時～14時

場 所：成田国際文化会館小ホール

成田市土屋303（TEL：0476-23-1331）



□赤玉卵産出鶏における誘導換羽後の卵重の制御

(畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 脇 雅之)

2銘柄の赤玉卵産出鶏を誘導換羽後、10%産卵に到達するまで低タンパク・低エネルギー飼料を給与した結果、卵重の増加が抑制される傾向がみられた。

□採卵鶏への天粕搾油残さ給与が産卵性に及ぼす影響

(畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 斎藤健一)

天井店から排出される天粕搾油残さは約30%の粗脂肪を含むが、飼料中に10%まで配合給与しても産卵性に影響はみられず、飼料原料として利用可能である。



□採卵鶏への玄米の上乗せ給与試験（畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 脇 雅之）

採卵鶏用飼料に丸粒玄米を上乗せ混合して給与した結果、10%までの上乗せでは産卵成績に大きな影響はみられないが、20%では産卵成績が劣る傾向を示した。

□粗蛋白質水準の違い及び粉米上乗せ給与が産卵中期以降の卵重に及ぼす影響

(畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 斎藤健一)

飼料中のCP水準を17%から16%に下げる卵重が低下、鶏卵規格のLL卵が減少しL卵が増加する。またCP17%飼料に粉米を20%上乗せ配合しても、同様の成績が得られた。

□グリットを利用した飼料用米の採卵鶏への給与（畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 脇 雅之）

丸粒粉30%配合飼料、市販採卵鶏用飼料共に、グリット（小石）を利用すると産卵率および産卵日量が高い値を示した。

□丸粒飼料用米によるブロイラーへの給与技術の検討（畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 赤木友香）

前期飼料からのトウモロコシの代替利用として、ブロイラーへ飼料用米を給与した結果、丸粒玄米は全量代替、丸粒粉は半量代替であれば十分に利用可能である。

□産卵鶏に発生した鶏大腸菌症（東部家畜保健衛生所 衛生指導課 片山雅一）

2007年1月と2010年6月に、同一産卵鶏農場において成鶏の大腸菌症が発生した。そこで同疾病の発生要因、感染源を探る目的で調査をしたので、その概要を報告する。

□採卵鶏主要銘柄経済性能比較調査（畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 溝井つかさ）

採卵鶏のボリスブラウン、デカルブブラウン、ゴトウもみじ、ジュリア、ジュリアライト、ハイラインマリア、バブコックB-400FS、デカルブTXの8銘柄について育成成績、産卵諸性能、卵質、糞中水分率などを調査した。

お問い合わせ先

千葉県畜産総合研究センター <http://www.pref.chiba.lg.jp/lab-chikusan/>
電話：043-445-4511 FAX：043-445-5447

肉用牛損害賠償金支払われる!!

東京電力福島第一原子力発電所の事故により、放射能物質により汚染された稻わらが流通し牛肉などに風評被害が出ている問題で、千葉県内の肉用牛生産農家が損害賠償請求を行うため、「千葉県肉用牛損害賠償請求生産者会会長 山崎 巖」が設立（以下、「生産者会」と言う）され、社団法人千葉県畜産協会が事務局となり実施しておりますので、これまでの結果等について報告いたします。（写真は第1回賠償請求の様子）



第1回請求	請求金額：447,441千円 請求者数：99名（会員数：124名） 補償金額：420,245千円（支払完了日：平成23年12月30日）
第2回請求	請求金額：562,226千円 請求者数：109名（会員数135名）
第3回請求	請求予定：3月、支払予定：4月 請求対象期間：平成23年7月8日～平成24年2月29日 請求対象：肉用牛販売、スマール・子牛販売、牧草等

情報提供等

《畜産研修会開催のご案内》

損害賠償金に伴う税制上の取扱い等の周知を図るため研修会を開催いたします。

なお、当団は稻WCS取り組みの展開についての研修も併せて行います。多数のご参加をお待ちしております。

1. 日時：平成24年2月9日（木）13：30～
 2. 会場：東金文化会館 小ホール（東金市八坂台1-2107-3 TEL：0475-55-6211）
 3. 研修内容：（1）稲WCS取り組みの展開 講師：長嶋 透 氏（酪農家）
（2）福島原発の損害賠償金に伴う税制上の取扱い・等 講師：秋葉 芳秀 氏（税理士）

《第3回請求について》

- ・生産者会への加入は随時受付ておりますので、お近くの支援団体又は事務局までお問い合わせください。
 - ・酪農及び乳肉複合経営の方は県酪連からのご請求になりますので注意ください。

支 援 团 体

千葉県家畜商協同組合、千葉県肉牛生産農業協同組合、千葉県配合飼料価格安定基金協会
[千葉県全日本畜産経営者協会]、社団法人千葉県農業協会（肉用牛部会）、株式会社千葉県食肉公社、
横芝光町（東陽食肉センター）、県南畜産処理事業協同組合（南総食肉センター）

千葉県肉用牛損害賠償請求生産者会（事務局：社団法人 千葉県畜産協会）
担当：武田・米倉・奥住（オクズミ） TEL:043(242)6333 FAX:043(238)1255

肉用牛肥育経営緊急支援事業（5万円事業）

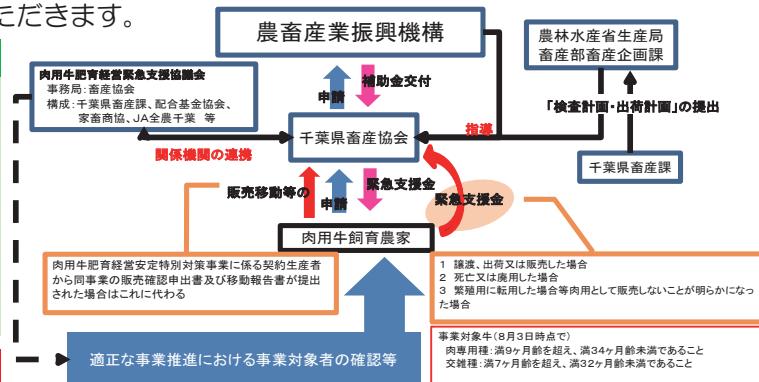
東日本大震災による福島原子力発電所事故により、高濃度放射性セシウムを含む稻わらが給与された肉用牛の牛肉から、暫定規制値を超える放射性セシウムが検出されたことにより、肉用牛肥育経営は出荷停止や自粛を求められたり、枝肉価格の低下から、苦しい経営を強いられています。

このため（独）農畜産業振興機構の補助を受け、当面の資金繰りを支援するため、事業対象者が所有する事業対象牛に対して1頭当たり5万円を緊急支援金として交付しました。

なお、交付された緊急支援金は損害補償ではありませんので、事業対象牛を販売した場合や死亡・廃用した場合等に事業対象者は緊急支援金相当額を返還していただきます。

◆緊急支援金の交付

- ・交付対象 肉専用種 3, 289頭
 - 頭数 交雑種 6, 880頭
 - 乳用種 2, 878頭
 - ・交付金額 652, 350, 000円
 - ・人数 80名
 - ・交付日 第1回目 平成23年11月25日
 - 第2回目 平成23年12月9日



◆緊急支援金の返還

返還については事業対象牛の販売・異動等のあった四半期の翌月末までに返還請求を行いますので、請求翌月末までに返還してください。(企画経営部 奥住)

肉用牛肥育
農家の皆様へ

肉用牛肥育経営安定特別対策(新マルキン)事業の
肥育牛補てん金の毎月交付が継続されます!
(平成23年7月~12月出荷牛分)

肥育牛補てん金の交付については、平成23年7月販売より四半期ごと交付から毎月交付に変更になりましたが、引き続き第3四半期(10月~12月)出荷牛についても毎月交付となりましたので、販売報告の漏れがないよう努めて下さい。(企画経営部 大崎)

1 補てん金単価について【平成23年11月】

(通常)

品種	肉専用種	交雑種	乳用種
単価	62,300円	170,600円	97,700円

(生産者積立金の納付が免除された交付対象の契約肥育牛の場合)

品種	肉専用種	交雑種	乳用種
単価	46,700円	127,900円	73,200円

2 補てん金単価の算定について【平成23年11月】

区分	肉専用種	交雑種	乳用種
平均粗収益(A)	766,705円	413,202円	227,490円
平均生産費(B)	844,668円	626,457円	349,677円
差額(C)=(A)-(B)	△77,963円	△213,255円	△122,187円
補てん金単価(C)×0.8	62,300円	170,600円	97,700円

注: 100円未満切り捨て

3 補てん金単価の推移

区分	肉専用種	交雑種	乳用種
23年11月	62,300円	170,600円	97,700円
23年10月	84,800円	153,600円	91,000円
23年9月	73,300円	108,100円	73,900円
23年8月	83,800円	89,000円	57,500円
23年7月	74,200円	99,400円	59,300円
23年度第1四半期(23年4~6月)	33,200円	51,300円	49,600円

肉用子牛生産者補給金制度

東日本大震災に係る要件緩和特例措置終了のお知らせ

震災対応として実施されておりました要件緩和特例措置について平成24年3月12日をもって廃止する旨の告示がありました。(農林水産省告示第二千三百五十三号)

最終的には、①外部導入の場合の飼養開始月齢及び個体登録申込期限を2月齢までとすること
②負担金納入期限を6月齢までとすることの適用に戻ることとなります。

対象牛の範囲等については下記のとおりとなりますのでご参照ください。(生産振興部 小倉)

《東日本大震災に係る特例措置終了の考え方》

区分	①	②
緩和措置	飼養開始月齢及び個体登録申込み期限の緩和	生産者負担金の納入期限延長
緩和内容	「2月齢-1日」→「5月齢-1日」	3カ月間延長(「6月齢-1日」→「9月齢-1日」)
対象地域	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、千葉県、新潟県、長野県の11県	青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、栃木県、千葉県、新潟県、長野県の9県
対象契約者	(外部導入牛)上記の11県から導入した契約生産者 (自家生産牛)上記の11県の契約生産者	青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、栃木県、千葉県、新潟県、長野県の9県で災害救助法の適用を受けた市町村(東京都の市町村を除く)に住所を有する契約生産者
注意事項	1月13日生まれまでは、導入・申込期限緩和対象となるが、最終期限が3月12日となる。	9月13日生まれまでは、負担金納入期限緩和対象となるが、最終期限が3月12日となる。

酪農、肉牛、養鶏、養豚、
ふれあい牧場などの事業を行っている皆様へ

畜産機械施設リースのご案内

平成22年4月から、より使いやすくするために次のような改正をしました。より多くの皆様のご利用をお待ちしています。

リース期間の延長(短縮)ができます

利用者の要望によって、機械施設の法定耐用年数の60%から120%の範囲(4年から9年)で延長(短縮)できます。9年に延長した場合のリース料などを6年貸付の場合と比べてください。

中古機械もリースします

草地造成や自給飼料生産用の機械施設で一定の基準を満たすものは、中古機械もリースの対象となります。

ふれあい牧場もリースの対象になります

ふれあい牧場などの事業者は、機械(アイスクリーム、チーズ製造機など)や施設(動物のゲージ、ベンチ、牧柵など)をリース対象として利用できます。

本件の貸付利子は、リース残高の1.0%とします。

リースの特徴・仕組

経営資金が有効に使えます

機械施設の導入時に多額の購入資金を必要としませんので大切な資金を有効に活かすことができます。

また、貸付利子はリース残高の1.0%(年)で、有利です。

リース物件は、リース終了後は自分のものになります

リース期間が終わったら、購入価格の100分の10の額に消費税相当額を加えた額でリースを受けた方に譲渡されます。

農家には農業協同組合を通じてリースされます

リース物件は、農家が選んだ業者から当協会が購入し、農業協同組合にリースします。農家はこの農業協同組合から再リースされます。

導入する機械施設、購入業者が選べます

リース物件は、農家が自由に選定でき、購入価格も業者と交渉して決めていただきます。

リース期間中は、偶発的事故の損害が補償されます

リース機械施設は割安な掛金で損害保険(動産総合保険)に一括加入されるので、リース期間中の火災・落雷・盗難等偶発的な事故による損害が補償されます。

特認貸付けもできます

リース可能な機械施設は別表のとおりですが、これ以外でも農林水産省生産局長の承認を受けてリースすることができます。詳しくは当協会へご相談下さい。

リース料の支払い例

例

(リース期間9年)リース機械価格100万円(消費税抜)貸付開始4月1日の場合

(単位:円)

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	議度価格	合計
リース料	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	1,000,000
消費税	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	50,000
利子	9,750	8,750	7,750	6,750	5,750	4,750	3,750	2,750	1,750	-	51,750
保険料	13,680	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,680
年間支払 合計額	128,430	113,750	112,750	111,750	110,750	109,750	108,750	107,750	106,750	105,000	1,115,430

例

(リース期間6年)リース機械価格100万円(消費税抜)貸付開始4月1日の場合

(単位:円)

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	議度価格	合計
リース料	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	100,000	1,000,000
消費税	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	5,000	50,000
利子	9,625	8,125	6,625	5,125	3,625	2,125	-	35,250
保険料	9,260	-	-	-	-	-	-	9,260
年間支払 合計額	176,385	165,625	164,125	162,625	161,125	159,625	105,000	1,094,510

注1:年間支払い合計額は、毎年、3月末と9月末の2回に分けて支払っていただきます。

注2:保険料は、この機械が自給飼料用・据付固定型の機械の場合で、機械の種類等によって若干異なります。

支払いの時期は第1回目のリース料の支払いと同時です。

注3:このほか、このリースを扱う農協等の事務手数料がかかる場合があります。

注4:中古機械のリース料についても上表に準じて適用されます。また、損害保険の対象にもなります。

主なリース機械と期間

貸付機械施設名	主要なリース機械	リース期間			
自給飼料生産 利用機械施設	トラクター ロータリー バキュームカー モアコンディショナー フロントローダー ¹ カッター フォレージハーベスター レーク類 ダンプカー	ラッピングマシン ロールカッター ロールペーラー ペールディストリビューター テッダー類 飼料攪拌機 マニアスプレッダー 播種機	ホイールローダー コーンハーベスター 自動給食機 ヘイベイラー コーンプランター ワゴン類 ディスクモア等モア類 F R Pサイロ	6年 5年	
搾乳施設	パイプラインミルカー	ミルキングパーラー	搾乳ロボット	搾乳ユニット自動搬送装置	6年
生乳冷却貯蔵施設	バルククーラー	プレートクーラー			6年
生乳検査機械	生乳成分測定器				6年
精液保管等施設	凍結精液保管器 液体窒素保管器	精液輸送車(特殊自動車の場合は5年) 補給器			6年
畜舎環境改善 機械施設	消毒機 細霧装置	消毒用自動車(特殊自動車の場合は5年) 節電装置	哺育器 通風装置		6年
中小家畜管理機械施設	自動給食器	豚分娩ゲージ	鶏舎用カーテン巻上げ機		6年
特認機械施設	検査分析機器	孵卵器	アイスクリーム製造機(従前の貸付例)		

リース期間は、要望により、上表の6年のものは4年から9年、同5年のものは2年から4年にすることができます。

この表は、リースしている機械の一部です。この表以外にもリースできる機械はたくさんあります。

詳しいお問い合わせは…

(社)千葉県畜産協会、お近くの農業協同組合又は(財)畜産近代化リース協会までご連絡下さい。

(財)畜産近代化リース協会

TEL:03-3584-0899

FAX:03-3584-0758

(社)千葉県畜産協会 経営支援課

担当:武田

TEL:043-242-6333

FAX:043-238-1255

平成23年度：ナイスポークチバ活動報告会盛大に開催

特別講演「福は口から」、サポーター会員との交流、選手参加で復活を期す千葉ロッテ
TPP阻止に向けた決議etc・・・盛り沢山

平成23年度の報告会は12月7日千葉市内京成ホテルミラマーレにおいて森田千葉県知事、国会、県議会議員、中央、県関係団体の他生産者及び賛助会員総勢220名が参加し盛大に開催されました。

今回の特別講演は、日本未病医学研究センター所長で天野 晓（りゅういん）医学博士を講師として、「福は口から」と題し病気にならない食習慣と併せて豚肉の健康効果についてご講演を頂きました。

報告会では、来賓として初めて知事のご出席を頂き、挨拶を頂いた後、映像による活動報告、昨年の日本一から今季リーグ最下位に沈んだ千葉ロッテマリーンズ伊藤投手、田中捕手を迎えてのトークショウ、色紙抽選会を通じて、チームの来季リーグ優勝に向け奮起を促しました。

この会の大きな目的の一つでもあるサポーター会員30数名との交流では、今回県産銘柄豚「ダイヤモンドポーク」「笑顔大吉ポーク」によるしゃぶしゃぶと恒例となった「ももハム」の試食に加え、ステージにおける質疑応答により、和やかな交流会となりました。

また、野田総理のTPP参加に向けた関係国との協議発言を受け、協議会として昨年に続き、断固TPP参加阻止に向けた決議を採択いたしました。

※会場に掲げられたスローガン

店頭から国産豚肉が消える

食の安全・安心を担保する規制まで剥がし取るTPP参加に断固反対

国民の安心・安全な暮らし、健康や食料自給率の向上に決して繋がらないTPPへの参加。



日本人が長い時間の中で価値観や倫理観を土台として築き上げた、我が国の重要な制度や仕組みの変更にも繋がるTPPへの参加を絶対認めることはできません。

そして、例外なき関税制度の撤廃は、我々養豚生産者は元より日本の農業経営者を根底から崩すものであり、断固反対していく状況を確認する報告会となりました。（生産振興部 加藤）



俺たちの豚肉を食ってくれ2011盛大に開催



一般社団法人日本養豚協会（JPPA）は11月19～20日に東京：日比谷公園で開催された「第2回食と農の祭典—ファーマーズ&キッズフェスタ2011」に参加した。今回5回目となる俺豚イベントは全国の養豚生産者、関係者が2日間で延べ200名を越える人達が集まりました。

ナイスポーク青年部から2日間で約35名の生産者、関係者が参加、イベントに協力し、特に全国8県の銘柄によるしゃぶしゃぶコーナーでは千葉県を代表して東庄町「東の匠SPF豚」が参加し、美味しさをおおいにアピールしました。

また、宮崎県から焼き肉試食提供があり、口蹄疫からの復活を消費者にアピールしました。

試食提供の他に、子豚とのふれあい、ホットドック早食い競争、子供たちを対象とした「じゃんけん大会」など盛り沢山の企画、初日が雨で出番がなかったちばの着ぐるみ達は、天候が回復した2日目には大活躍できました。

2日間の公式来場者数は41,500人との発表。例年JPPA青年部が主催するイベントとして定着し、国産豚肉をおおいにPR出来た2日間となりました。（生産振興部 加藤）



平成23年度 千葉県豚共進会

肉豚の部第2類において多古町内山利之氏が農林水産大臣賞を2年連続受賞！種豚の部では、印西市の五十嵐修氏が親子群で名誉賞を受賞いたしました。

平成23年度千葉県豚共進会（肉豚の部）は9月27日（火）～29日（木）旭市の千葉県食肉公社を会場として、また、（種豚の部）は10月25日（火）～26日（水）八街市のJA全農ちば八街畜産市場においてそれぞれ開催されました。

肉豚の部は1類77組154頭、2類19組152頭の出品があり、第1類（2頭1組）の名誉賞は、香取市高萩の角田義浩氏の出品豚に、また第2類（8頭1組）の名誉賞は多古町間倉の内山利之氏の出品豚が受賞されました。

第2類の名誉賞に輝いた内山氏の出品豚は、全頭上物で形質良好、肉質・脂肪の質もよく総合的にすばらしい枝肉で、昨年に引き続き農林水産大臣賞を受賞されました。

種豚の部では38頭が出品され、Ⅱ部の親子群に出品した印西市竜腹寺の五十嵐修氏のランドレース種が名誉賞に輝きました。（生産振興部 金杉）



種豚の部及び肉豚の部それぞれにおいて勉強会を実施いたしました。



県畜産総合研究センター産出の米国系ランドレースを用いての勉強会意見交換会を実施いたしました。

（株）ナスアグリサービス
の平野氏より米国の豚について
説明をいただいた。



富士平工業（株）に依頼し肉のおいしさのもとと言われるオレイン酸・飽和脂肪酸の測定を専用機械を用いて、上位入賞豚14組46頭について測定いたしました。

測定結果（全体の平均）
オレイン酸 53.6 飽和脂肪酸 40.3

第36回千葉県種豚オークション

第36回千葉県種豚オークションが、10月26日（水）JA全農ちば八街家畜市場において開催されました。

出品頭数は、純粋種20頭、F1 29頭の出品があり、購買者は13人集まり販売成立84%となりました。 次回オークション開催日

次回オークション開催日
平成24年2月15日(水)



瞳は未来を見つめてる。



動物 未来 いつめる ひるがく



ZENOAO

動物用医薬品 製造販売
日本全薬工業株式会社

郡山市安積町世川字平

2011年(第5回)千葉県畜産フェア開催

平成23年10月1日(土)、船橋競馬場ふれあい広場に於いて第5回千葉県畜産フェアが千葉県・船橋市の後援、関係団体、出展団体等の協力、また、多数の団体より協賛を頂き盛大に開催されました。

競馬場でのイベントはふれあい広場・千葉県畜産フェア・新たに本年度よりダートマラソンが開催され、天候に恵まれた中、大勢の方が来場されました。

開会式には船橋市長、県農林水産部次長が出席され出展者の方々に激励をされました。

また、船橋市に部屋があります松ヶ根部屋(大相撲)のご協力を得て餅つきを実施いたしました。

恒例の搾乳体験は昨年度は口蹄疫により中止としましたが本年度は実施され、親子連れに好評でした。

本年度は震災による原発の風評被害(畜産物)をPRするため、牛肉出展団体(4団体)豚肉(3団体)鶏肉(1団体)が出展され(前年5団体)県内畜産品の安全・安心等、消費者にPRいたしました。

千葉県・船橋市・関係団体・協賛団体・出展団体等の協力により無事終了することができました。(企画経営部 大崎)



畜産新規就業者確保・定着促進事業

畜産協会では、畜産業への就業の促進を図るため「千葉で畜産の仕事はじめてみませんか?」をキャッチフレーズに新規就業者等への畜産のPR活動、就農就業相談会における畜産関係情報の提供及びマッチングサポート、畜産就業者へのフォローアップ等の支援活動を行っております。(企画経営部 棚葉)

難しい雇用問題に、皆さんと共に取り組みます!

雇用状況等の収集・分析

全国423法人調査

- ・求人充足度合は約80%
- ・労働保険加入率約95%
- ・社会保険加入率約65%
- ・初任給(高卒~大卒)は165~190千円

(中央委員による現地調査)



- ・畜産新規就業者(39才以下)は約1,500人(農業分野の27%・H20年農水省調査)

畜産のPR活動

(千葉県畜産フェア会場でPR)



(県内の農業高校等でのPR講演)



就農就業相談会

(新農業人フェア・相談コーナー)



(新農業人フェア・セミナー)



NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター通信

1. NPO専門部会の副部会長

当NPOにおける支援活動を充実させるにあたり、まだ決まってなかった4部会の副部会長が次のように決まり、各部会は部会長を中心に、それぞれが積極的に事業を展開することとなりました。

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| (1) 企画部会（香川莊一・南出宏） | (2) 生産振興部会（井口元夫・内田賢一） |
| (3) 衛生環境部会（計良伸行・若松森雄） | (4) 調査研究部会（桐岡寛司・高梨勝） |

2. 認定NPO法人取得申請説明会

千葉市内で開かれた上記説明会に参加して、認定NPO法人となるための条件や特典を聞いたところ、年間の寄付金が30名から1,000円ずつも集まれば…税制上の特典を得られるとか。当NPOにおいては、当分見合わせることにしました。（H23.9.13）

3. 畜産経営支援組織連携強化事業

(1) 千葉県畜産フェア

当NPO法人は、上記畜産フェアに5会員が参加し、「畜産なんでも相談」のコーナーを設定したり、搾乳体験コーナーの支援等を行いました。（H23.10.1）

(2) 食と震災のシンポジウム

社団法人千葉県農業協会と上記シンポジウムを共催しました。（H23.10.20）

(3) 生産者との意見交換会

当NPO法人企画部会の初企画となる生産者との意見交換会を千葉県香取農業事務所の協力を得て香取地域で開催しました。酪農・肉牛・養豚・養鶏部門の生産者と関係団体を含めた中で、各生産者から貴重な意見や要望を聞かせていただきました。

この時出された意見を参考に、次の畜産研修会に取り上げることとしました。（H23.11.29）

(4) ちば畜産レディースネットワークとの情報交換会

上記ネットワークとの共催で実施した情報交換会において、各部門の会員と貴重な情報の交換ができました。

ある部門の実習生を他の部門に紹介する話や原発事故損害賠償手続きによる関係団体等への感謝の話いろいろな情報が飛び交いました。（H23.12.6）

(5) 畜産研修会

当NPO法人が社団法人千葉県畜産協会・同千葉県農業協会・千葉県全日本畜産経営者協会等と共に畜産研修会を開催することとしました。

内容は「稻WCSとコントラクタ」、「原発事故損害賠償金に伴う税制対策」の2題で、千葉県の酪農および肉牛の生産者にとって重要なものです。当NPO法人では、企画部会と生産振興部会が今回の中心となります。（H24.2.9）

4. 事務所の移転

社団法人千葉県畜産協会の移転に伴い、従来通り当NPO法人も同協会内に事務局を置かせてもらうこととなりました。おかげさまで、同協会の指導を受けながら、気持ちよく事務を執らせていただいております。

NPOとして、今まで以上に畜産振興の支援に貢献しようと心新たにしているところです。（H23.10.9）

5. 千葉県農場HACCP推進指導事業

当NPO法人は社団法人千葉県畜産協会が事業主体である上記事業の調査に係る事務の一部を受けることとなり、関係機関および団体の協力を得てアンケート調査用紙を生産者の中から酪農・肉牛・養豚・養鶏の4部門の合計300戸に配布しました。（回収率は、なんと約90%）。希望する生産者を年度別に分けて、畜産協会の部長とNPO会員を含む6名のHACCP指導有資格者が現地に赴くこととなりました。

HACCPそのものがなんであるか、十分に浸透していない面もあり、今年度の希望者は酪農2・肉牛2・養豚3・養鶏2の合計9件となりました。

6. 原発事故損害賠償請求事務の支援（酪農・肉牛）

当NPO法人は、上記支援で酪農関係に延32名、肉牛関係に延39名が参加しました。

◎入会申込みや畜産に関するご相談等をお待ちしております。

お問い合わせは… NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター事務局（（社）千葉県畜産協会内）

TEL:043-242-6333

FAX:043-238-1255

正会員 59(内、団体8) 賛助会員 2(団体)



ちば畜産レディースネットワーク会報 通算第6号 **モ~モ~フ~フ~コケコッコ~**
千葉県内の畜産に携わる女性のみなさんの会報です。



活動記録

1 千葉県畜産フェア出展

平成23年10月1日(土) 午前10時~午後3時
船橋競馬場 15名参加

- ・昨年大好評の「ミルクくず餅」を調理・提供。
450個を販売、活動資金潤う
- ・初めての試みとして会員6名の方から自家牧場産の米、味噌、落花生、プリン、ケーキ等を寄付いただき、景品として提供したところ、大好評で景品を欲しがる客が多かった。
- ・フェア終了後、船橋市高根町にある牛乳力フェ「蔵6330」で反省・慰労会・情報交換会を開催。



松ヶ根部屋力士と記念撮影



ミルクくず餅が今年も好評でした

2 家畜供養法要&情報交換会

平成23年12月6日(火) 午前9時~午後5時

- ・家畜供養法要: 富津市「佛母寺」
住職の法話、献花・家畜供養塔の礼拝。
会員等23名が参加
- ・情報交換会: 富津市金谷「ザ・フィッシュ」



佛母寺での家畜供養法要



「ザ・フィッシュ」での情報交換会

3 全国畜産縦断いきいきネットワーク若手後継者育成研修会インin南房総

平成23年9月29日午後2時~3時

- ・全国ネットのメンバーが会員の須藤牧場、池田牧場を視察。
レディースメンバー11名が歓迎の交流会を開催。



全国ネットとの交流会

4 千葉県農山漁村女性団体ネットワークリーダー会議

平成23年10月19日、11月21日 県庁16F会議室

- ・須藤会長、柴副会長が参加しました。

活動予定

1 役員会 平成24年1月18日(水) 午前11時~午後3時、千葉県畜産協会会議室

- ・これまでの活動を踏まえた今後の取組等について協議予定

2 千葉県農山漁村いきいきフォーラム 平成24年2月1日(水) 午前10時~午後3時

- ・テーマ: 東日本大震災を乗り越える~新しい一步を踏み出すために~
・10名以上の参加を予定、皆様のご参加、よろしくお願ひいたします。(事務局 新城)

会員だより

「養鶏とともに幾歳月」 柏市 程田 節子(養鶏)



畜産関係者の皆様、初春のお喜び申し上げます。

昨年は宮崎県の鳥インフルエンザH5N1亜型から始まり、東日本大震災、それに伴い福島原発事故が発生し、宮崎県での生卵が原因の食中毒、TPP問題と畜産を取り巻く環境も大きく変化しました。

そして今でも風評被害、飼料高騰、災害補償と大きな傷痕を残しています。

私は柏で養鶏業を営んでおります、程田節子です。

安心して安全なウソのない商品を消費者に届けたく、飼料は自家配合、築50年になる鶏舎は昔ながらの開放鶏舎、9,000羽の鶏たちの卵はすべて自家売りしています。

平成16年5月、夫が同じ志をもつ市内農業者15名と「地産地商」をかけ農産物直売所「かしわで」を立ち上げました。

地域農業者の活性化の場所となる様に・・・・。担い手となる若き農業者の婚活、食育に伴う学校給食、地域との共存、試行錯誤の中5年目の平成20年度の売り上げは9億円。

人口43万人の都市の中で大勢のお客様に喜んでいただける店として又農家もやりがいのある農業として進んできたはずなのに・・・・。

平成23年3月、福島原発事故での放射能、マスクの過大なる報道に昨日食卓に並んでいたものが今日はまったく売れない。

“ホットスポット”、“柏の野菜は危険だ”、“子供を放射能から守る会”など、検査をし“安全”を表示しても「柏産」というだけで売れない。売り上げは前年から大幅に下落。

「不安」だけが一人歩きしている毎日、明日への不安、未来への不安、そして度重なる報道被害。被害者は生産者だけでなく、消費者も同じであった。

“放射能って何”、“放射能が危険な理由”、“シーベルトとベクレル”。

情報を得る為に何度も行う勉強会で自分達がいかに「無知」であることも知った。

日々の報道の中で放射能の理解はしてきたつもりだが、いざ詳しい事になるとわからないことが多すぎた。測定地域による数値の違いに憤りさえおぼえてしまう。

「無知と未知」

だからこそ私達女性も、放射線汚染の影響等の問題を共有しながら一緒に千葉の畜産を考えていきましょう。

養鶏業に嫁いで18年。盆も正月もない畜産業、家族の一泊旅行さえできなかった。

鶏舎の周りで遊んでいた子供たちが中学生になった頃、「俺、卵屋の子供でよかった」と言ってくれた、うれしかった。だからこそ続けていけるものなら養鶏業を続けていきたい。やりがいのある仕事として・・・、未来ある子供達の為にも・・・。

頑張ろう！！千葉の畜産！！負けるな！！千葉の畜産！！

★ふれあい体験教室開催★

☆くりもと道の駅 23年10月23日(日)

くりもと道の駅より一般消費者への参加募集をし、JAかとり養豚部栗原支部、房総パーク販売促進協議会の協力により実施しました。

遠方よりの参加者が多く、出来上がったワインナーが美味しかったと好評でした。また、生産者が養豚に取組む話を熱心に聞き、質問が絶えなかった。

その後、地元産豚肉房総パークと野菜のバーベーキューを食べ、サツマイモ堀りが行われ楽しい一日となった。



☆旭ふれあいセンター 23年11月28日(月)

旭市においては養豚生産者の女性を中心に酪農・養鶏・稻作生産者と消費者により実施した。

日頃、忙しい中、集まる機会が少ないため、体験をしながら生産者の情報交換・交流の場となった。

養豚農家9名・酪農家4名・養鶏農家1名・稻作農家1名・消費者9名の参加となった。(企画経営部 大崎)



次代へつなぐ子供達の為にも安全な精肉を



CHEF MEAT CHIGUSA Co.,Ltd

株式会社シェフミートチグサ

〒262-0012 千葉県千葉市花見川区千種町210-5
TEL: 043-259-3705 URL: www.chefmeat.co.jp/

事務所移転のお知らせ

本会はこのほど事務所を下記へ移転いたしましたのでご案内いたします。

なお、電話番号は従来と変更ありませんが、FAX番号が代表FAX一本となりましたのでお間違えのないようご注意願います。（総務部 奥住）

移転先：〒260-0021 千葉市中央区新宿1-2-3 K&T千葉ビル3F



地方競馬の収益金は畜産の振興に役立っています。

「食の安全・安心」のための第1歩は、
「法令遵守」であることを改めて認識してください。

- 編集後記 -

平成13年のBSE確認以降この10年、畜産をめぐる環境は厳しい出来事の連続でした。高病原性鳥インフルエンザ及び口蹄疫の大発生、飼料の異常なまでの高騰、東日本大震災・津波、更には福島原発の水素爆発・農畜産物の放射能汚染禍等々、数え上げると暗い気分に陥ります。

「禍福は糾える縄の如し」と申します。これだけ「禍」が續けば、そろそろ「福」の出番を願うのも人情です。しかしながら一方、「天は自ら助くる者を助く」とも申します。

海外悪性伝染病の脅威、TPP等貿易問題、いつまで続くか放射能問題、飼料価格の高止まりなど、座して「福」が来るのを待つだけでは「泣き面に蜂」になりかねません。

平成24年は「防疫」に細心の注意を払い、「貿易」の行方を注視し、諸問題の解決に関係者・機関が一丸となって真摯に取組み、「福」を自ら手繰り寄せる努力が一層求められるのではないでしょうか。（事務局長 新城）

部 署	TEL	FAX	メールアドレス
総務部	総務課 043-242-5417(代)		info@chiba.lin.gr.jp
企画経営部	企画課 043-242-6333	043-238-1255	oosaki@swan.ocn.ne.jp
	経営支援課		takeda@swan.ocn.ne.jp
生産振興部	酪農肉牛課 043-242-8299		ogura@true.ocn.ne.jp
	養豚課 043-241-3851		kato@np-chiba.jp
衛生環境部	衛生指導課 043-241-1738		chieishi@aioros.ocn.ne.jp
	環境指導課		

URL <http://chiba.lin.gr.jp>